

我が国が締結したEPA利用の状況、効果、課題に関する調査研究

(報告書の概要)

我が国は、平成21年10月現在、10カ国1地域とのEPAが発効している。しかし、昨年度の調査では、EPAの発効国は増えているものの活用に関しては十分な成果を得られていない状況も把握されている。このような現状から、我が国がEPAをより効果的なものとし、企業による活発な利用を実現してゆくためには、すでに発効しているEPAの企業における活用状況を把握し、活用を促進するための課題を洗い出した上で、改善すべき点を整理することが求められる。本調査研究では、既に締結されているEPAの利用状況、効果、及び課題分析を実施した。分析の結果、EPAの更なる活用を促進するためには、EPA活用のコストの削減や、活用する業界全体の理解の深堀のために、EPAと実務をつなぐマニュアルの作成、EPAを活用する企業が協力を依頼するための環境整備、原産地証明と他の貿易システムとの連携などが重要な観点であり、様々な主体の協力により解決していく課題として抽出された。

(報告書の主要構成)

- (1) 調査の目的と方法
 - ①調査の背景と目的
 - ②調査の内容
 - ③調査の方法
- (2) 主要な輸出産業における物流の状況
 - ①主要国に対する輸出額から見るEPAの効果
 - ②主要産業の物流の状況
- (3) EPA活用のメリットとデメリットの分析
 - ①EPA活用に必要な組織体形
 - ②EPA活用に必要なコスト
 - ③EPAの費用対効果
- (4) 企業におけるEPA活用に関する課題意識
 - ①EPA活用状況
 - ②EPA活用に関わる問題点
 - ③その他の地域における貿易上の課題点
- (5) EPA活用の促進に関する今後の課題